

本 会 記 事

◎ 第 1 回評議員会

昭和 39 年 4 月 28 日 (火) 午後 4 時 30 分から社団法人として第 1 回の評議員会が日本電機工業会食堂で開催され、後藤会長以下 9 名が出席した。

まず後藤会長が本学会の現況報告を行ない、評議員各位に今後一層の協力を要請し、その後評議員から学会活動とくに会誌にたいする要望などが述べられた。

◎ 第 2 回通常総会

昭和 39 年 5 月 6 日 (水) 午後 2 時から、日本電機工業会講堂 (東京都千代田区永田町) において、第 2 回通常総会が開かれた。出席者 292 名 (内委任状 231 名)、後藤会長を議長に選出ののち、下記の諸事項につき審議されたが、異議なく承認された。なお、同総会終了後約 1 時間にわたり、来日中の J.P. Eckert 博士 (Sperry Rand 社, Univac Div. 副社長) の講演会が行なわれた。

1. 38 年度事業報告および収支決算の件
2. 39 年度事業計画および収支予算の件
3. 役員改選の件

なお、同審議事項の詳細は下記のとおりである。

- 昭和 38 年度事業報告
- 昭和 38 年度計算報告
- 昭和 39 年度収支予算および役員

昭和 38 年度 事業報告

1. 総 会

第 4 回通常総会ならびに社団法人創立総会

昭和 38 年 5 月 23 日、日本電機工業会講堂 (東京都千代田区永田町) において、第 4 回情報処理学会総会が開催された。同総会において任意団体としての本学会の解散が承認されたので、ひきつづき「社団法人情報処理学会」の創立総会が、山下会長の議長のもとで行なわれ、全員一致をもって、社団法人設立が、決議されるとともに、後藤以紀氏が新会長および法人設立代表者に選出された。出席者 364 名 (内委任状 294 名) また、創立総会終了後約 1 時間にわたり、元岡達 (東大)、河野忠義 (国鉄) 両氏による講演が行なわれた。

両総会の審議決議事項はつぎのとおり。

(I) 第 4 回 通常総会

1. 37 年度事業報告、決算報告
2. 評議員選出の件
3. 情報処理学会解散の件

(II) 社団法人情報処理学会創立総会

1. 設立趣意書ならびに定款の件
2. 38 年度事業計画ならびに収支予算の件
3. 資産の継承について
4. 新役員選任の件

なお、38 年度新役員はつぎの通りである。

会 長 後藤以紀

副 会 長 宇野利雄, 高橋秀俊

常務理事 河野忠義 (庶務担当), 穂坂 衛 (調査, 研究担当), 森口繁一 (編集担当), 和田弘 (事業担当)

理 事 茅野 健, 喜安善市, 城 憲三, 清宮博, 高崎 勲, 高橋 茂, 山内二郎

監 事 斎藤 有

評 議 員 後藤以紀以下 69 名

2. 社団法人 情報処理学会の許可

昭和 38 年 12 月 19 日、文部省から社団法人情報処理学会の許可があり、同 12 月 26 日に社団法人の設立登記を完了した。

3. 理 事 会

(I) 情報処理学会として

昭和 38 年 4 月に第 35 回理事会を開き、以後同年 12 月までに定例 9 回、臨時 2 回、計 11 回を開催した。

(II) 社団法人情報処理学会として

昭和 39 年 1 月より、理事会を 3 回、常務理事会 2 回計 5 回を開催した。

4. 編集幹事会

昭和 38 年 4 月開催の第 34 回編集幹事会以後毎月 1 回定例的に 12 回を開催した。同年度の幹事は次の通り。

編集担当常務理事: 森口繁一

幹事: 甘田早苗, 伊吹公夫, 伊理正夫, 岩村聯, 浦昭二, 榎本肇, 大野豊, 金田弘, 高島堅助, 高田雅陽, 田中明, 泥堂多積, 中島勝也, 西

野博二, 西村真一郎, 林智彦, 間野浩太郎,
元岡達, 森 敬.

5. 文献ニュース小委員会

昭和38年4月より, 39年3月までに9回開催し,
誌集幹事会の会誌編集の作業に協力した. 委員は下記
のとおり.

西野博二(主査), 相磯秀夫, 石井善昭, 加藤満左
夫, 高島堅助, 田中明, 田村康男, 中川圭介, 岩城
三郎, 村田賢一, 中西俊男, 吉村一馬, 吉村賢讓

6. 研究委員会

○機械翻訳研究委員会(委員長 和田弘 以下15名)
奇数月第3月曜日に開催, 計6回

○ALGOL 研究委員会(委員長 高橋秀俊 以下13
名)8月から電子協 A/F 分科会と4回にわたっ
て共催

○EDPS 研究委員会(8名)

月1回, 年度内に10回開催

○プログラム懇談会(顧問30名, 委員30名)

月1回, 計12回開催

○COBOL 研究委員会(13名)

月1回程度, 年度内に11回開催

○数理学総合研究委員会 シンポジウム

伊東において, 1月8~10日の3日間開催した.

出席者147名. テーマ27件

7. IEC, ISO 国内委員会

前年に引き続き, 本年度も次のメンバーによって,
下記のとおり活発に行なわれた. また同委員会は工業
技術院から IEC 文書に対する原案委託をうけている.

委員長 山下英男

委員 猪瀬博, 岸上勉, 喜安善市, 高橋秀俊, 和
田弘, 森口繁一, 吉岡忠, 西条利彦, 矢川
豊, 河野忠義, 三原裕登, 新堀達也, 高橋
勲, 小林大裕, 牧野雄一, 高田昇平, 海宝
顕, 藤本久勸

とくに 38年12月17日の第5回合同委員会にお
いて, 今後 IEC の(S)文書の審議体制を強化するた
めに,

(1) 両国内委員会を合同し「規格委員会」と改称す
る.

(2) この内部に次の4常設委員会をもうけること
を決め, その委員長を下記のように決定した.

53 A (Digital I/O equipment) ……高橋 茂

53 B (Digital data transmission) ……新堀達也

53 C (Analogue equipment on information

processing systems ……寺尾 満
53 D (I/O media) ……和田 弘
(97 SC 2 ……コード標準化委員会)

ついて 39年2月19日, 規格委員会(第1回)
を開き, ISO 97 とその SC 全体の P メンバーにな
ること, ISO 97 の New York 会議に代表団を派
遣することを決定した.

8. コード標準化委員会

わが国のコード標準化のために, 通産省工業技術院
から, 155万円の調査研究委託費をうけ, 電々公社技
師長, 佐々木卓夫氏を委員長として, 38年7月に発
足した. 39年3月までに, 委員会9回, Working Gro-
up 2回, 特別委員会1回を開催し, 3月末日をもっ
て, 調査研究を完了した. なお, その間, 和田委員は
IEC 53 と 53 D (38年9月, 於コペンハーゲン) に
出席するとともに, 欧州各国のコード標準化の実情を
調査した. また本学会規格委員長 山下前会長は ISO
97/SC 2 (38年10月, 於パリー) に出席し, コード
の日本案を提出した.

委員はつぎのとおりである.

委員長 佐々木卓夫

委員 石川淳吉, 来豊平, 峰岸俊雄, 塩川新助,
遠藤力, 山村公平, 斎藤有, 高田昇平, 出
川雄二郎, 小林大裕, 佐々木練太郎, 林大,
元岡達, 清野武, 喜安善市, 新堀達也, 和
田弘, 南沢宜郎, 吉岡忠, 矢川豊, 牧野雄
一, 海宝顕, 藤本久勸

9. 国際協力

○IFIP (情報処理国際連合)

理事会(38年9月, 於ノルウェー) 和田常務理
事出席

WG-2, ALGOL (38年9月, 於オランダ) "

WG-2, ALGOL (39年3月, 於ドイツ) 井上謙
藏氏出席

○A.A.A.S. (米国科学振興協会)

1963年度年次大会(38年12月, クリーブランド)
後藤会長出席

○IEC, ISO 国際会議

山下規格委員長および和田常務理事が出席

(第7項 IEC, ISO 国内委員会, 第8項コード
標準化委員会を参照のこと)

10. 学会誌の発行

昭和38年度に下記6冊を発行した.

Vol. 4, No. 2 3月号

Vol. 4, No. 3 5月号

No. 4 7 "

No. 5 9 "

No. 6 11 "

Vol. 5, No. 1 1 " (印刷中)

会誌は B5 判 6 ページとし、1,600 部を印刷、正会員、賛助会員、関係学協会などに配本し、200 部のバックナンバーを取り揃えている。

11. 英文誌発行

昭和 38 年 3 月に、Information Processing in Japan, Vol. 2, 1,000 部を出版し、海外および国内の著名大学、研究所、図書館などに配布した。

13. 「電子計算機ハンドブック」編集

後藤以紀氏を委員長に 8 月以来、6 回にわたり編集準備会を開き、その大綱をきめた。大きさは A5 判、1,200 ページ、5,000 円、著作権は学会、出版はオーム社とし、40 年度内に発行するように作業をすすめている。

14. 第 4 回講演大会

昭和 38 年 12 月 5、6 の両日、日本電機工業会館および電気試験所の 2 会場（東京都千代田区永田町）で開催した。なお、大会終了後、懇親会が開かれた。

参加者 450 名 招待講演 4 件

発表論文 40 件

15. 評議員会

○第 6 回評議員会

昭和 38 年 5 月 17 日、日本電機工業会館で開催。

出席者 17 名、委任状 32 名、計 49 名

○第 7 回評議員会

昭和 38 年 12 月 6 日、日本電機工業会館で開催。

出席者 21 名、委任状 29 名、計 51 名

16. 関西支部の設立

昭和 38 年 9 月 4 日づけをもって、関西支部が設立され、支部長に城理事が任命された。

39 年 1 月に設立記念講演会を電子会館（大阪市北区梅ヶ枝町）で開催した。後藤会長の挨拶につづき、講演 6 件が行なわれた。

出席者 250 名。なお、数値解析およびシステム・ソルビングの分科会が定期的に関開かれている。

17. 庶務事項

学会事務所

会員数 昭和 39 年 3 月 31 日現在

正会員 1,479 名

賛助員 69 (138 口)

昭和 38 年度決算報告

1. 昭和 38 年度予算及び資金収支計算書

昭和 38 年度予算

支出の部		収入の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
事務費	912,000	入会金	20,000
会議費	200,000	正会員会費	1,100,000
通信費	120,000	賛助会費	3,000,000
会誌出版費	2,080,000	JIS 委員会費	1,550,000
研究会費	300,000	利息収入	40,000
JIS 委員会費	1,550,000	雑収入	120,000
IFIP 分担金	180,050	COBOL 出版	461,000
海外派遣費	250,000	繰越金	329,217
海外出張費	100,000	37年度未収入金	627,000
COBOL出版費	585,652		
37年度未払金	599,429		
次期繰越金	370,086		
計	7,247,217	計	7,247,217

昭和 38 年度資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
会議費	178,393	前期繰越金	329,217
会員費	126,370	入会費	25,900
会誌出版費	1,088,865	正会員費	1,144,240
研究会費	653,730	賛助会費	2,670,000
事業費	874,540	委託金	70,000
海外活動費	891,733	補助金	50,000
事務局費	1,215,389	COBOL売上金	428,700
支部勘定	171,490	利息収入	47,136
次期繰越金	519,823	雑収入	955,140
計	5,720,333	計	5,720,333

2. 財産目録

(昭和 39 年 3 月末日現在)

科目	金額	摘要
資産の部		
1 基本財産	500,000	
定期預金	350,000	第一銀行
有価証券	150,000	電話債券 (額面 150,000円)
2 運用財産	3,732,299	
現金	10,179	
預金	159,644	{三井 第一 住友 振替貯金 3,885 422 370 154,967
未収入金	2,642,000	{委託金 (工技院) 1,550,000 委託金 (工技院) 50,000 会費 (692 口) 692,000 賛助費 (17.5 口) 350,000
棚卸資産	861,700	{学会誌 4,300 冊 688,000 和訳 COBOL その他 173,700
固定資産	48,476	{スチールロッカー、ケース、小倉 庫、各 1 机、椅子、各 2
電話加入権	10,300	
資産計	4,232,299	

科 目	金 額	摘 要
債の部		
流動負債	2,474,567	
未払金	1,419,697	{和訳 COBOL 会誌 No. 2~4 その他 委託事業費 (電子協, 日本電気) 笠井印刷
支払手形	1,054,870	
負債計	2,474,567	
引当味財産	1,757,732	

昭和 39 年度 収支予算

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額(円)	科 目	金 額(円)
議 費	222,000	前期繰越金	519,823
員 費	140,000	入 会 金	50,000
誌 出版費	2,120,000	正 会 員 会 費	2,000,000
研 究 会 費	350,000	賛 助 会 費	3,200,000
業 費	1,755,000	委 託 費	1,550,000
外 活 動 費	761,000	補 助 金	150,000
務 局 費	1,582,000	利 息 収 入	50,000
部 勘 定	280,000	雑 収 入	190,177
備 費	150,000		
期 繰 越 金	350,000		
計	7,710,000	計	7,710,000

会 員

- 正 会 員 2,000 名
(昭和 38 年度末現在 1,479 名)
- 賛助会員 160 名
(昭和 38 年度末現在 138 名)

会 誌 年 6 回

研 究 会

COBOL, ALGOL, MT, EDPS SC 等約 10 回

大 会 年 1 回

事 業

コード標準化, 規格関係, 英文誌, ハンドブック, ICC 関係

海外活動; IFIP, ICC

昭和 39 年度役員 (○印は新任)

長: 後藤以紀

会長: 宇野利雄, 城 憲三

務理事: 河野忠義, ○西野博二, 穂坂衛, 森口繁一

事: ○大泉充郎, ○川上正光, ○清野 武, ○後藤英一, 高橋茂, ○出川雄二郎, ○南沢宜郎

事: 斎藤 有

◎文献ニュース小委員会のうごき

去る 5 月 14 日の同委員会で, 西野主査の辞任にと
も無い, 元岡委員が主査に就任した。また 38 年度委
員 13 名のうち 7 名が辞任し, 8 名が新任された。

39 年度の委員はつぎのとおりである。(○印は新任)
○元岡達 (主査 東大), 相磯秀夫 (電試), ○新井克彦
(通研), ○石立 喬 (日電), 加藤満左夫 (通研), ○金
山裕 (東大), ○示村悦二郎 (早大), ○関口正一 (北辰)
○中川圭介 (東大) 中西俊男 (鉄研) ○水田幸夫 (日
本 IBM) 村田賢一 (富士通) 吉村一馬 (日立) 吉村
賢讓 (東芝)。

◎ISO, IEC 国際会議に日本代表を派遣

ISO 97 および IEC 53 の国際会議が 5 月 4~28 日
の 25 日間にわたり New York で開催されたので,
当学会規格委員会では, 同国際会議へ日本工業標準調
査会 (JISC) からの要請により日本代表団を結成し,
和田委員を団長として 17 名を派遣した。団員の氏名
および開催会議名は次のとおりである。

団員氏名

和田弘 (団長), 森口繁一, 高橋茂, 藤本久勤, 南
敏, 池田敏雄, 西岡英也, 太田勇吉, 高羅芳光, 梶
正明, 川崎秀夫, 米沢威行, 安藤文男, 水野幸男,
魚住董, 海宝顕, 三木康夫。

会議名 ISOTC 97 Plenary, S.C 1, 2, 3, 4, 5, 6, 8
(SC 2-WG), 7 (WG-G), ISO TC 95/SC 8, IEC
53 D